

## ●●●● 子供たちの豊かな想像力や創造性を育む教育の推進 ●●●●

～第 64 回東京都公立学校美術展覧会を終えて～

指導部主任指導主事 岩崎 治彦

第 64 回東京都公立学校美術展覧会が、東京都美術館を会場にして、2 月 9 日から 14 日まで開催されました。本年度は、13,924 点が出品され、来場者数は 69,992 人と、どちらも過去最高となりました。

毎年、会場は、出品された子供たちの御家族、御親戚の方で一杯になります。本年度は、「私は小学校 1 年生のときに第 1 回のこの展覧会に出品され、63 年後に孫が私と同じお習字の作品が出品されて本当に嬉しい。」と大感激されている方がいました。このように、多くの方に喜んでいただいている東京都公立学校美術展覧会が半世紀以上の歴史を積み重ねてこられたのは、各地区教育委員会の皆様と、関係教科の先生方の御理解と御協力のお蔭です。心から感謝申し上げます。

子供たちの作品は大人を感動させる素晴らしい力をもっています。それは、子供たちが新しい世界を作り出す豊かな想像力や創造性をもっていて、無限の可能性に満ちているからでしょう。私はそう考えます。展覧会場で作品一つひとつを見つめていると、そんな子供たちのたくさんの声が聞こえてくるような気がします。「素敵な世界を想像してみたよ。」「思いをこめて丁寧に書いたよ。」「形にこだわって工夫したよ。」「何回も練習して、とてもうまくできたよ。」等々。会場全体が、そのような子供たちの声で溢れています。

さて、世界に目を向けると、人が環境と豊かに交流しながら環境と自分自身をよりよく更新し続け、新しい意味や価値を創造していくための重要な力として、子供たちの豊かな想像力や創造性に着目し、義務教育課程においてそれらを伸ばさせていこうとする動きが高まっています。少し前の話ですが、ユネスコ芸術教育世界会議（2006 年）では、アメリカ、イギリス、フランスなど多くの国々から、創造性育成の担い手としての芸術教育の充実を図る取組が報告されました。

東京都公立学校美術展覧会は、子供たちの想像力や創造性に溢れた作品の発表の場であるとともに、各学校における、それらの向上を図るための教育活動を一層推進していくことを目的としています。

今後とも、本展覧会の開催について、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 目 次

- 効果検証の時期です！東京ベーシック・ドリルの診断シートを御活用ください！ …… 2
- 「理数教育の窓」平成 26 年度東京ジュニア科学塾専修コースが閉校しました …… 4
- 「将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応」について …… 6

東京都教育委員会ホームページ内に「学び応援ページ」というコーナーがあるのを御存知ですか？

「学び応援ページ」には、各学校が、指導内容や指導方法等の工夫を通して、授業の改善・充実を図ることを応援するための、様々な事例集や報告書等を掲載しています。ぜひ、御覧いただき、参考にさせていただければと思います。なお、本通信のバックナンバーも、順次「学び応援ページ」に掲載しています。

（東京都教育委員会ホームページアドレス

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>）

**学び応援ページを御活用ください！**

**東京ベーシック・ドリルも  
掲載しています！**

東京都教育委員会ホームページ・トップページ  
の下の方に、このバナーがあります！



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

# 効果検証の時期です！

## 東京ベーシック・ドリルの診断シートを御活用ください！

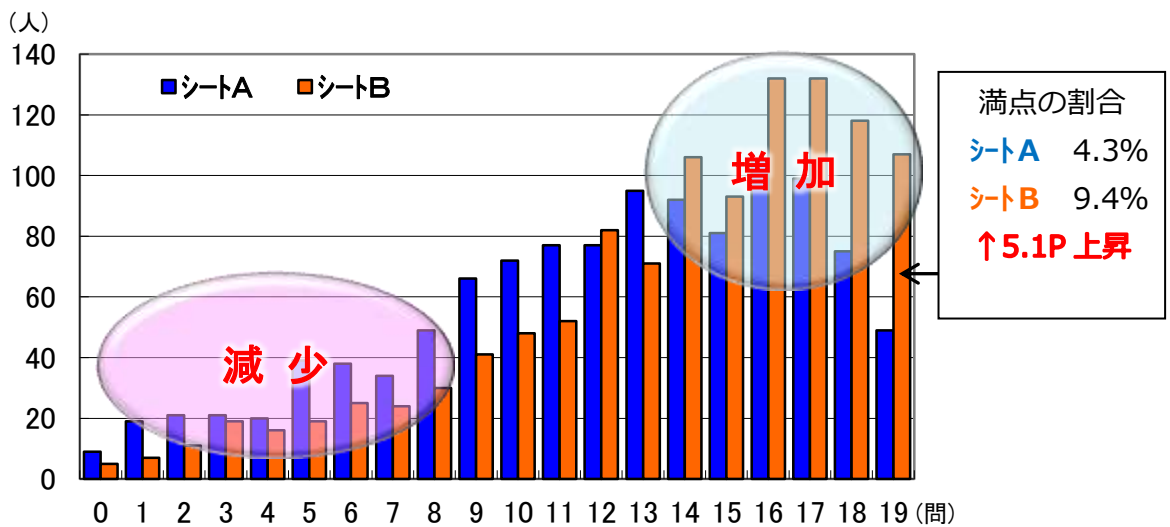


いよいよ3月。年度のまとめの時期になりました。  
今年度新たに教員を加配した小学校 25 校で、「東京方式習熟度別指導ガイドライン」に基づいた算数の習熟度別指導を進めてきました。それらの学校で取り組んだ、年度初めと年度途中の『診断シート結果』のデータを基に、学校における結果分析の方法を紹介します。

### 第5学年を対象とした「4年生の診断シートA→診断シートB」結果の推移グラフ

年度当初 (シートA) : 児童数=1138人 平均正答率=63.5%

年度途中 (シートB) : 児童数=1138人 平均正答率=71.8% **↑8.3P 上昇**



**注目！**

子供のみならず、立ち戻る指導を徹底することで、学力の向上が見られています。このように年度初めと年度途中に診断シートの結果を比較することで、学級や学年の習熟の程度を把握することができます。そして、子供一人一人の課題を明らかにし、重点的な指導を行い、基礎的・基本的な事項の徹底を図っていくことが大切です。その成果は、年度末に再度、診断シートを活用して検証することができます。

結果分析のためには、学級や学年の習熟の程度の把握だけでなく、問題ごとの正答率の推移を見ることが大切です。

下の表は、上のグラフと同じ児童の、診断シート全 19 問の正答率の変化を示したものです。



### <診断シート A→B結果 正答率の推移と増減ポイント>

1	2	3	4	5	6	7
整数の表し方 70.7→71.2 +0.5P	概数と四捨五入 63.5→78.1 <b>+14.6P</b>	整数の除法 64.6→70.6 +6.0P	計算のきまり 71.3→76.6 +5.4P	小数の仕組み 87.9→86.9 <b>-1.0P</b>	小数+小数 68.6→82.0 <b>+13.4P</b>	小数-小数 72.2→71.5 <b>-0.8P</b>
8	9	10	11	12	13	14
小数×整数 <b>58.7→60.4</b> +1.7P	小数÷整数 42.7→71.3 <b>+28.6P</b>	帯分数と仮分数 77.6→86.8 +9.2P	同分母分数の加法 91.4→80.2 <b>-11.2P</b>	同分母分数の減法 70.5→77.8 +7.3P	伴って変わる二つの数量 <b>44.0→58.3</b> <b>+14.3P</b>	面積の単位と測定 <b>46.2→47.2</b> +1.0P
15	16	17	18	19	大幅に正答率が上昇した問題 正答率が下降した問題 正答率が70%に満たなかった問題	
角の大きさ 48.9→73.2 <b>+24.3P</b>	平行四辺形、ひし形、台形 <b>52.7→66.7</b> <b>+14.0P</b>	立体図形 <b>40.9→47.9</b> +7.0P	資料の分類整理 76.6→81.1 +4.5P	変化の様子と折れ線グラフ 57.6→76.8 <b>+19.2P</b>		

前ページの結果を、

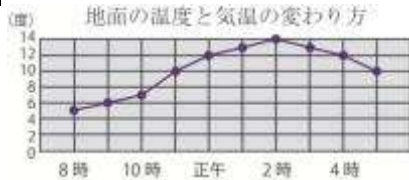
①大幅に正答率が上昇した問題    ②正答率が下降した問題    ③正答率が70%に満たなかった問題

の視点で分析してみましょう。

①大幅に正答率が上昇した問題

(例) ② 四捨五入して、( ) の中の位までのがい数にしましょう。( +14.6P)  
932468 (千の位)

⑬ 折れ線グラフを見て答えましょう。( +19.2P)



- ① 気温が一番高かったのは何時ですか。
- ② 気温の上がり方が一番大きかったのは、何時から何時の間ですか。

これらは、「単元の学習の際には習得した知識だが、その後に学習する機会が少ないことから正答率が低くなっていた。」と考えられる問題です。「この問題を覚えていますか?」と、定期的に授業で取り上げたり、他教科と関連させて使う場面を意図的に設定したりすることが必要です。

②正答率が下降した問題

(例) ⑦ 計算をしましょう。( -0.8P)  
 $9.153 - 8.64$

⑪ 計算をしましょう。( -11.2P)  
 $2\frac{3}{6} + 1\frac{2}{6}$

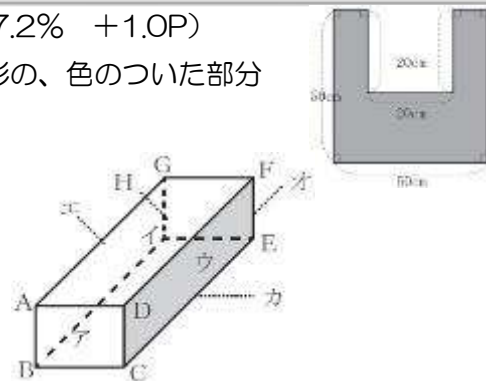
これらは、「小数や分数の計算の技能について、一度は習得したがその後の練習の時間が少なくなったことから、定着度が低くなった。」と考えられる問題です。計算については、単元の学習の際に、その技能面だけでなく、「計算の意味」や「計算の仕方」をじっくり考えさせていくことや、単元の学習の終了後もドリルやプリント等を活用して、計算の習熟を図ることが必要です。

③正答率が70%に満たなかった問題

(例) ⑭ 次の面積を求めましょう。(46.2%→47.2% +1.0P)

- ① たてが9cm、横が12cmの長方形
- ② 右の形の、色のついた部分

⑰ 右の図の直方体で、辺EFに垂直な辺はいくつありますか。また、面アに垂直な面はいくつありますか。  
(40.9%→47.9% +7.0P)



これらは、「繰り返しの指導を行ったが、複合図形の求積や立体の辺や面の関係の理解については以前から課題があり、定着自体に困難があった。」と考えられる問題です。授業を改善し、授業の中で実際に操作しながら考える活動や、多様な考えを認め合う学習活動を多く取り入れていくことが大切です。

今回は、**新たに教員を加配した25校の結果**を基に、学力向上に向けた分析方法や課題を明確にしましたが、それぞれの学校によって課題は違います。**それぞれの学校で結果を分析し、課題を明確にした上で、授業改善を行うことが大切です。**

「習熟度別指導ガイドライン」には、具体的な目標(達成水準)として、『小学校卒業までに東京ベーシック・ドリルを全員がクリアする』と明記されています。「できなかった問題をできるようにする」ために、**その子供のつまづきを見取り、その子供に合った教材を与えるなど、個に応じた指導を充実させていきましょう。**

# 「理数教育の窓」 —理数好きの子供たちを育てるために—

## 平成 26 年度 東京ジュニア科学塾 専修コースが閉講しました

東京都教育委員会では、理数教育の充実に向けて、様々な取組を実施しています。

今回は、そのうちの1つである「東京ジュニア科学塾 専修コース」での取組を紹介します。

### 東京ジュニア科学塾 専修コースとは

東京都から未来の科学技術を担う人材を輩出するため、都内の公立中学校2年生 40 名が、年間8回、専門家による講義を受けたり、最先端の技術を活用したものづくりや大学等の研究機関の施設を使った実習などを行ったりしています。

### 開講式及び第1回 東京都庁

開講式（7/20）後の第1回の講義では、京都大学の佐々木貴教先生を東京都庁にお招きして、「地球以外にも生命を宿す惑星は存在するのか？」の演題で講演をしていただきました。



### 第2回から第5回 各会場



- ◇ 第2回 東芝未来科学館（8/8）  
館内の見学や講義、実験からスマートコミュニティなどについて学習した後、備長炭を使った燃料電池を作成しました。
- ◇ 第3回 葛西臨海水族園（9/14）  
魚の行動の違いによって、体の特徴が異なってくることを、小型魚とクロマグロを比べて観察しました。  
また、東京学芸大学の狩野賢司先生から、魚が生き残るためにどのような行動をしているのか講義していただき、実際に園内の魚を観察しました。
- ◇ 第4回 東京理科大学 及び（株）ツムラ（10/19）  
東京理科大学の秋山仁先生から、数学の難解な問題について、シャボン液などの実際の物を使って分かりやすく教えていただきました。  
また、（株）ツムラの研究者の方々から、生薬についての講義を受け、生薬成分の確認実験を行いました。
- ◇ 第5回 東京大学 産業技術研究所（11/9）  
東京大学 生産技術研究所の石井和之先生から、体の中で光により機能する分子について講義していただき、実際に分子模型を組み立てました。



## 第6回から第7回 日本科学未来館

第6回と第7回（12/7、1/11）では、日本科学未来館において、科学コミュニケーションの力を育成することを目的とし、演習を行いました。

館内の展示から各自テーマを決め、グループ内での議論を重ねてより深く追究するとともに、相手に分かりやすい発表ができるようポスターにまとめました。



## 第8回及び閉講式 東京都庁

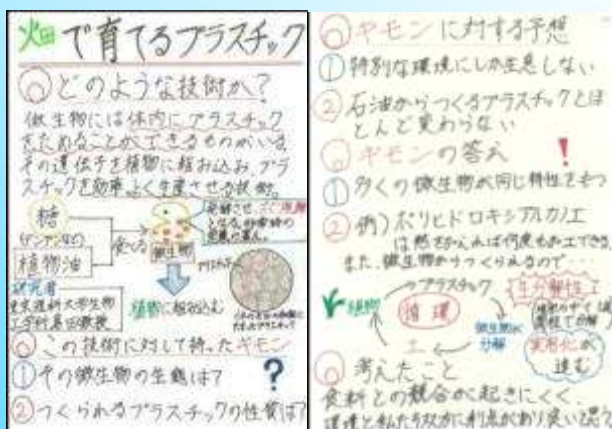
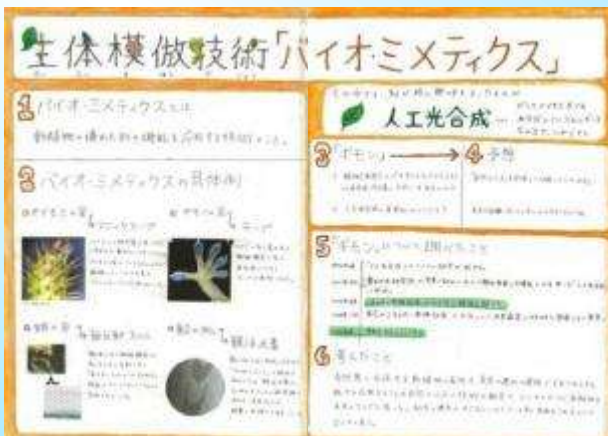
第8回（2/1）の最終回では、都政ギャラリーにおいて、各自が第6回以降に追究した成果を仲間と保護者にポスターを用いて発表しました。

また、閉講式において、一人ひとりが修了証を受け取りました。

代表の生徒は、「これからも科学を勉強し、私たち人間の生活やその他の生き物、そして地球の役に立つようにしていきたい。」と今後の抱負を述べました。



生徒が作成したポスター



東京ジュニア科学塾 専修コースは、平成 27 年度も実施します。募集は、平成 27 年 5 月に行う予定です。詳細については、学校から配布される通知や東京都教育委員会のホームページ等を確認してください。

# キャリア教育のより一層の充実を目指して 「将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応」について

## 「キャリア教育教師用手引書」を活用しましょう！

### キャリア教育のより一層の充実を目指して

#### 中学校キャリア教育教師用手引書

##### ◆本手引書の概要

学校教育の中でキャリア教育の重要性は一層高まっています。しかしながら、今までの教育活動のままでよいと誤解されていたり、職場訪問や職場体験をもってキャリア教育を行ったものとしていたりする現状が指摘されているとともに、教員の受け止め方や実践が一様でない面があります。

そのため、各学校において、校長のリーダーシップの下、全教職員が連携しながらキャリア教育を実践することができるよう、キャリア教育の定義や目標の設定から評価の改善までの手立てなどをまとめました。キャリア教育の指導内容・指導方法の一層の充実に向けて、校内研修会等で本書を御活用ください。

キャリア教育についての理解、自校の状況や取組について確認してみましょう。

キャリア教育全体	キャリア教育について正しく理解していますか？	2ページ 「Ⅰ キャリア教育の定義」へ
	キャリア教育で育成すべき力を理解していますか？	3ページ 「Ⅱ キャリア教育で育成すべき力 - 『基礎的・汎用的能力』とは - 」へ
	キャリア教育の目標について理解していますか？	4ページ 「Ⅲ キャリア教育の目標とは」へ
	キャリア教育と進路指導との関係を理解していますか？	5ページ 「Ⅳ キャリア教育と進路指導」へ
自校のキャリア教育の状況	キャリア教育の全体計画を作成し、毎年見直しをしていますか？	6～9ページ 「Ⅴ 全体計画の作成」へ
	キャリア教育の年間指導計画を作成し、授業実践の振り返りをしていますか？	10～12ページ 「Ⅵ 年間指導計画の作成」へ
	実践したことを評価し、次年度の全体計画、年間指導計画に生かしていますか？	13ページ 「Ⅶ 評価」へ
	キャリア教育の年間指導計画（例）	14～21ページへ
	特設コラム～将来起こり得る人生上の諸リスク～	22～23ページへ
	キャリア教育の一層の推進に向けて	24ページ 「Ⅷ 指導計画の評価と改善」へ

学校教育の中でキャリア教育の重要性は一層高まっており、キャリア教育の正しい理解が、子供の「生きる力」を育む指導につながります。

キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育です。

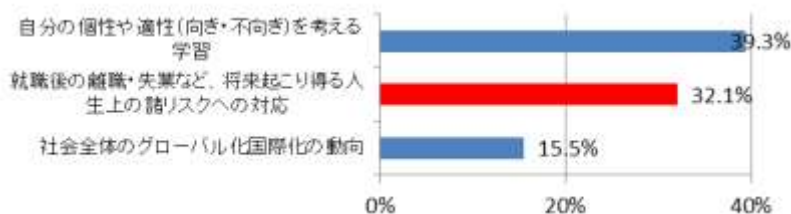
学校において、キャリア教育の実践を深めるために、平成26年3月に都内の全ての公立小・中学校の全教員に配布した、「キャリア教育教師用手引書」をぜひ活用しましょう。



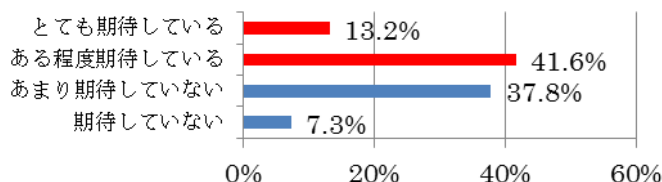
## 将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応について

中学校版の「手引書」に、特設コラムとして掲載されています。

将来の生き方や進路について考えるために指導してほしいこと（生徒調査）



将来の起こり得る人生上の諸リスクへの対応（保護者調査）



中学校第3学年生徒の約3割は、「将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応」についての指導を望んでおり、保護者の半数以上が同様の指導を期待しています。



中学校では、「将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応」の観点から教科等の指導を振り返ると、日頃から諸リスクに対応する内容を扱っていることが分かります。

義務教育を終える中学校では、卒業を前にした中学校第3学年の生徒に対して、リスクへの対応の視点も踏まえて各教科の授業を実践することも有効です。

※小学校では、来年度の年間指導計画の作成に際して、特設コラムを参考にし、関連がある学習内容を確認することが大切です。(例)特別活動 社会のルール・マナー

【参考】中学校キャリア教育教師用手引書は、東京都教育委員会ホームページに掲載されています。

[http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/career\\_text-chu.html](http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/career_text-chu.html)

意図的に諸リスクへの対応の観点から授業を実践することによって、より一層生徒や保護者の願いに応えていくことができます。

子供たちは、社会の仕組みを理解することで、力強く人生を歩むことができます。